

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成26年10月16日(2014.10.16)

【公表番号】特表2012-521966(P2012-521966A)

【公表日】平成24年9月20日(2012.9.20)

【年通号数】公開・登録公報2012-038

【出願番号】特願2011-553339(P2011-553339)

【国際特許分類】

C 0 7 D 215/38	(2006.01)
A 6 1 K 31/47	(2006.01)
C 0 7 D 417/12	(2006.01)
A 6 1 K 31/4709	(2006.01)
A 6 1 P 25/04	(2006.01)
A 6 1 P 25/08	(2006.01)
A 6 1 P 25/22	(2006.01)
A 6 1 P 25/28	(2006.01)
A 6 1 P 25/06	(2006.01)
A 6 1 P 25/02	(2006.01)
A 6 1 P 13/12	(2006.01)

【F I】

C 0 7 D 215/38	C S P
A 6 1 K 31/47	
C 0 7 D 417/12	
A 6 1 K 31/4709	
A 6 1 P 25/04	
A 6 1 P 25/08	
A 6 1 P 25/22	
A 6 1 P 25/28	
A 6 1 P 25/06	
A 6 1 P 25/02	
A 6 1 P 13/12	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年9月1日(2014.9.1)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0006

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0006】

さらに、KCNQ2 / 3K<sup>+</sup>チャンネルは、多数の他の疾患、例えば偏頭痛(米国特許第2002/0128277号明細書)、認識疾患(Gribkoff著, Expert Opin Ther Targets 2003; 7(6): 737-748)、不安状態(Korsgaard et al.著, J Pharmacol Exp Ther. 2005, 14(1): 282-92)、てんかん(Wickenden et al.著, Expert Opin Ther Pat 2004, 14(4): 457-469; Gribkoff著, Expert Opin Ther Targets 2008, 12(5): 565-81; Miclelli et al.著, Curr Opin Pharmacol 2008, 8(1):

65 - 74)、尿失禁 (Streng et al. 著, J Urol 2004; 172: 2054 - 2058)、依存症 (Hansen et al. 著, Eur J Pharmacol 2007, 570 (1 - 3): 77 - 88)、躁病 / 双極性障害 (Dencker et al. 著, Epilepsy Behav 2008, 12 (1): 49 - 53)、筋失調に関連する運動障害 (Richter et al. 著, Br J Pharmacol 2006, 149 (6): 747 - 53) の治療のための適当な対象である。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0068

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0068】

有利に、本発明による医薬は、痛み、有利に急性痛、慢性痛、神経障害性痛、筋肉性痛及び炎症性痛からなる群から選択される痛み；てんかん、尿失禁、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識疾患、筋失調を関連する運動異常症及び / 又は尿失禁からなる群から選択される 1 種又は数種の疾患の治療のために適している。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0072

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0072】

痛み、有利に急性痛、慢性痛、神経障害性痛、筋肉性痛及び炎症性痛から選択される痛み；てんかん、尿失禁、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識障害、筋失調と関連する運動障害及び / 又は尿失禁を治療するための医薬を製造するための、少なくとも 1 種の本発明による置換された 3 - アミノ - 2 - メルカプトキノリン並びに場合により 1 種若しくは数種の製剤学的に許容された助剤の使用が有利である。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0076

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0076】

本発明の他の主題は、痛み、有利に急性痛、慢性痛、神経障害性痛、筋肉性痛及び炎症性痛から選択される痛み；てんかん、尿失禁、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識障害、筋失調と関連する運動障害及び / 又は尿失禁を治療するための、少なくとも 1 種の本発明による置換された 3 - アミノ - 2 - メルカプトキノリン並びに場合により 1 種若しくは数種の製剤学的に許容された助剤である。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 13

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 13】

痛み、てんかん、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識障害、筋失調と関連する運動障害及び / 又は尿失禁の治療のための医薬を製造するための、個々の立体異性体又はその混合物、遊離化合物及び / 又はその生理学的に許容し得る塩の形態での請求項 1 から 11 のいずれか一項に記載の少なくとも 1 種の 3 - アミノ - 2 - メルカプトキノリンの使用。